

△何故に良いか、何故に悪いか、解剖的に観察してゆくことも無益ではない。まづ繪の組立を見る、蔭日向の調子を見る、色彩の調和を見る、作家の現はさんとする、エフェクトが充分であるか否かを見る、目に立つやうな不自然な箇所がなく、春なり秋なりの感じが切實に出てゐたら、それは良い繪といふに妨ない。

△何故に良いか、何故に悪いかといふことが、たゞ思ふ計りで自分で其譯が発見されない場合には、これを自己の信ずる先輩に糺して意見をきいたらよい、曖昧にして看過したのでは何等の資益がない。

△要するに、繪畫展覽會に入つたら、畫道修業者は普通觀覽人よりも一層も二層も注意を拂つて、深くその繪を鑑賞し、タトへ拙作の繪畫からでも、多少にても自己の研究を助くるやうな美點を見出すことを心掛けたらよいと思ふて、こゝに一言した次第である。(完)

以上は、曾て日本水彩畫會研究所例會に講演せしものにて煩をさけ要を摘みしを以て、文字連絡を欠けど、丁度上野に各種の展覽會の開かるゝ時であるから、諸君の御參考にもと茲に掲ぐることにした。

水彩畫の紙 (その一)

畫學紙なら厚いのがよい、小學校の生徒などが使ふ、繪具の沁み込むやうなポテ／＼したのはいけぬ、B印の六七錢以上のならよい。

水彩畫には普通のワットマンが一番よい、アラ目といふのは初學の人には使ひにくい、小判のワットマンは紙が薄いため、兎角膨脹して困る、水貼の時充分水に侵して貼らねばいけぬ、直段は普通のワットマンよりは割合が高い。

OWといふ英國水彩畫協會特製の紙がある、洗つて畫くのに都合がよい、この紙はワットマンよりは高價で、そして馴れないうちは使ひにくい。